

令和7年度身体拘束ゼロに向けた取組等に関する調査について

- 目 的** 介護保険施設等における身体拘束の状況、身体拘束ゼロに向けた取組等の把握
- 対 象** 介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護医療院、特定施設入居者生活介護事業所
- 基 準 日** 令和7年6月1日

結果概要

- 身体拘束された実人数（被拘束者数）は、453人（前年比67人減）
- 入所者数に対する被拘束者数の割合は、3.3%（前年比0.7ポイント減）
- 身体拘束の主な態様は、ミトン手袋41.3%、ベッド柵24.0%、介護衣（つなぎ服）13.1%。被拘束者のうち認知症の割合は94.3%

○ 調査対象施設等

単位：箇所

施設種別	調査対象数
介護老人福祉施設	97
介護老人保健施設	57
介護医療院	30
3施設計	184
特定施設入居者生活介護事業所	48
計	232

○ 調査結果

1 身体拘束された実人数等

単位：箇所、人、%

施設種別	施設数	入所者数	身体拘束された実人数	拘束率
介護老人福祉施設	97	5,729	115	2.0
介護老人保健施設	57	3,662	44	1.2
介護医療院	30	1,894	284	15.0
3施設計	184	11,285	443	3.9
特定施設入居者生活介護事業所	48	2,354	10	0.4
計	232	13,639	453	3.3

< 身体拘束された実人数等（過去3年） >

単位：人、%

	R 6		R 5		R 4	
	人数	拘束率	人数	拘束率	人数	拘束率
介護老人福祉施設	125	2.5	122	2.4	118	2.0
介護老人保健施設	35	0.1	53	1.3	34	0.8
介護医療院	348	18.2	291	15.6	240	15.2
介護療養型医療施設	—	—	4	9.3	4	10.0
4施設計	508	4.8	470	3.9	396	3.4
特定施設入居者生活介護事業所	12	0.1	13	0.6	10	0.4
計	520	4.0	483	3.4	462	3.3

2 身体拘束の態様別人数

単位：人、%

拘束の態様	人数	割合
① 徘徊しないように、車いすやいす、ベッドに体幹や四肢をひも等で縛る	16	3.0
② 転落しないように、ベッドに体幹や四肢をひも等で縛る。	15	2.9
③ 自分で降りられないように、ベッドを柵（サイドレール）で囲む。	126	24.0
④ 点滴・経管栄養等のチューブを抜かないように、四肢をひもで縛る。	13	2.5
⑤ 点滴・経管栄養等のチューブを抜かないように、または皮膚をかきむしらないように、手指の機能を制限するミトン型の手袋等をつける。	217	41.3
⑥ 車いすやいすからずり落ちたり立ち上がったたりしないようにY字型拘束帯や腰ベルト、車いすテーブルをつける。	53	10.1
⑦ 立ち上がる能力のある人の立ち上がりを妨げるようないすを使用する。	5	1.0
⑧ 脱衣やおむつ外しを制限するために、介護衣（つなぎ服）を着せる。	69	13.1
⑨ 他人への迷惑行為を防ぐために、ベッドなどに体幹や四肢をひも等で縛る。	10	1.9
⑩ 行動を落ち着かせるために、向精神薬を過剰に服用させる。	0	0
⑪ 自分の意思であけることのできない居室等に隔離する。	1	0.2
合計	525	100.0

※ 一人が複数の方法で拘束されている場合は、それぞれに計上

3 身体拘束された実人数に占める認知症の割合

単位：人、%

	身体拘束された実人数	うち認知症の人数	割合
介護老人福祉施設	115	112	97.4
介護老人保健施設	44	43	97.7
介護医療院	284	262	92.3
3施設計	443	417	94.1
特定施設入居者生活介護事業所	10	10	100.0
計	453	427	94.3

4 身体拘束ゼロに向けての具体的取組状況

単位：箇所、%

取組内容	R7		R6		R5		R4	
	実施施設数	実施割合	実施施設数	実施割合	実施施設数	実施割合	実施施設数	実施割合
委員会の設置	232	100.0	243	100.0	240	100.0	239	100.0
指針（マニュアル）の作成	232	100.0	243	100.0	240	100.0	239	100.0
職員研修の実施	232	100.0	243	100.0	240	100.0	239	100.0